

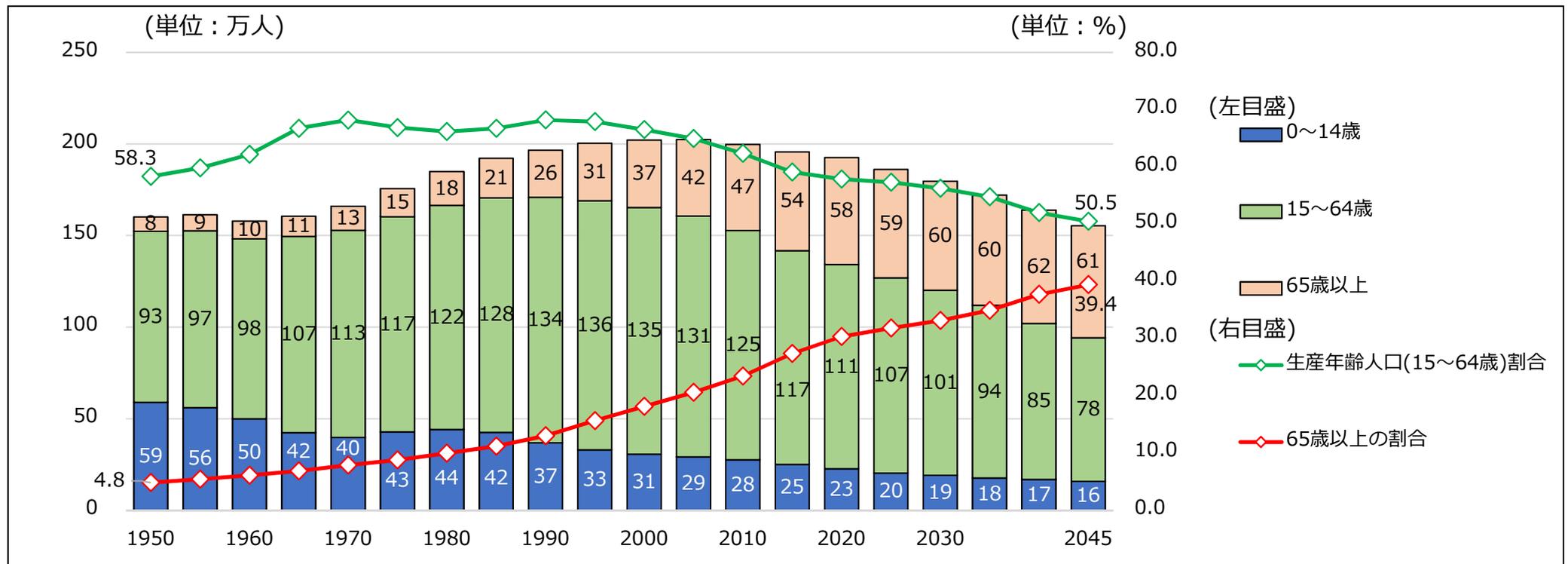
第1章 本県観光の現状及び課題

現状1 本県の強み・弱みとその変化の兆し

我が国の人口は減少局面に入っており、少子高齢化・生産年齢人口の減少も進んでいます。

本県も同様に人口減少が進んでおり、経済規模の縮小が懸念されるほか、将来的には本県を訪れる観光客が減少することが想定され、本県の弱みと考えられます。

■本県の人口推計



(出典) 群馬県「年齢別人口統計調査結果」「群馬県の将来推計人口」
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

本県の強みとしては、首都圏から近いという位置的な利点があるということや、豊富な湧出量と上質な泉質を誇る様々な温泉、固有の自然や文化などの資源に恵まれていること等があげられます。



草津温泉 湯畑



尾瀬



世界遺産 富岡製糸場

これらの強み・弱みについて、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、変化の兆しが見られています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、人々に従来の日常から「ニューノーマル（新常態）」への転換を求めるなど、大きな痛みを生み出した一方で、これまでの大都市のように「密閉×密」ではなく、「開放×疎」という、ゆとりある空間へのトレンドが強まることが考えられています。

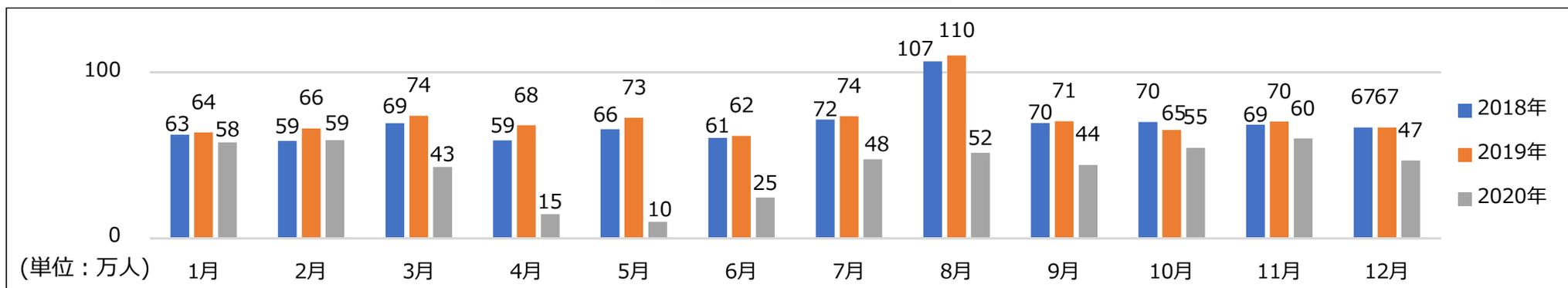
このトレンドは、本県の強みにとって追い風になると考えられるほか、弱みである人口減少も強みへと変化させる可能性があり、千載一遇のチャンスと言えます。

現状2 求められる観光のニューノーマル転換

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、訪日外国人旅行者は激減したほか、緊急事態宣言の発令により、営業や移動の自粛、要請が行われるなど、観光産業にも大きな影響が発生しています。

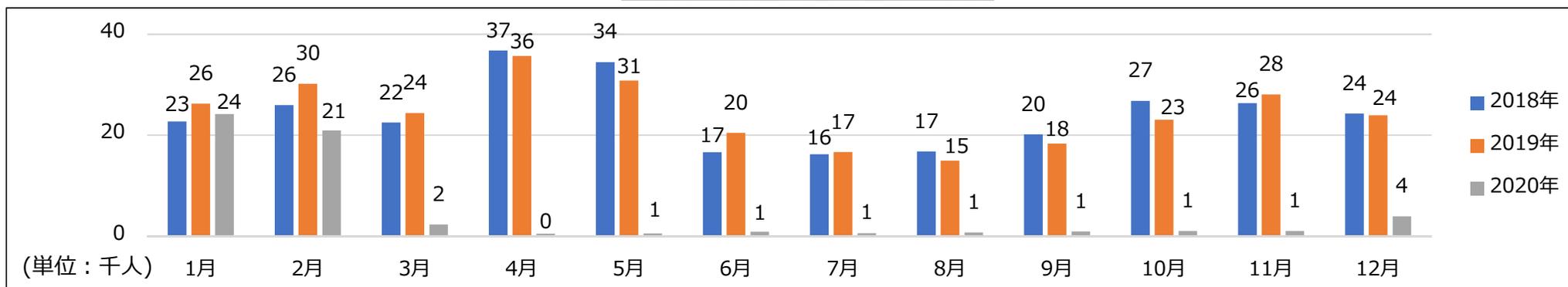
宣言の解除後であっても、感染の収束は見通せず、感染予防対策を徹底したうえでの営業や移動が求められるなど、観光においてもニューノーマルへの転換が求められています。

■本県の宿泊者数の状況



(出典) 観光庁「宿泊旅行統計」(※2020年は速報値に基づく)

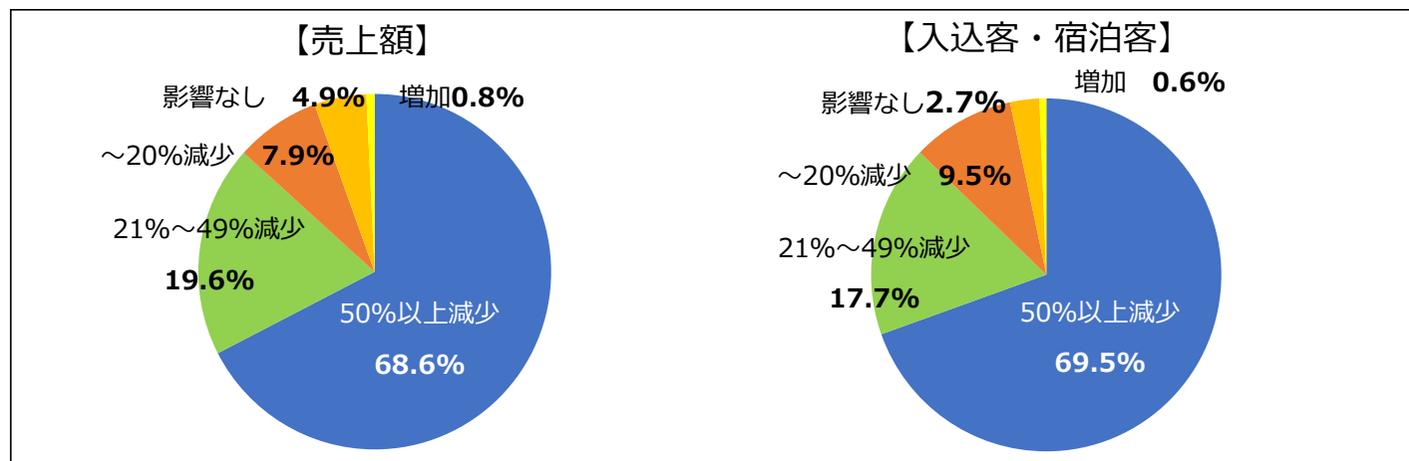
■本県の外国人宿泊者数の状況



(出典) 観光庁「宿泊旅行統計」(※2020年は速報値に基づく)

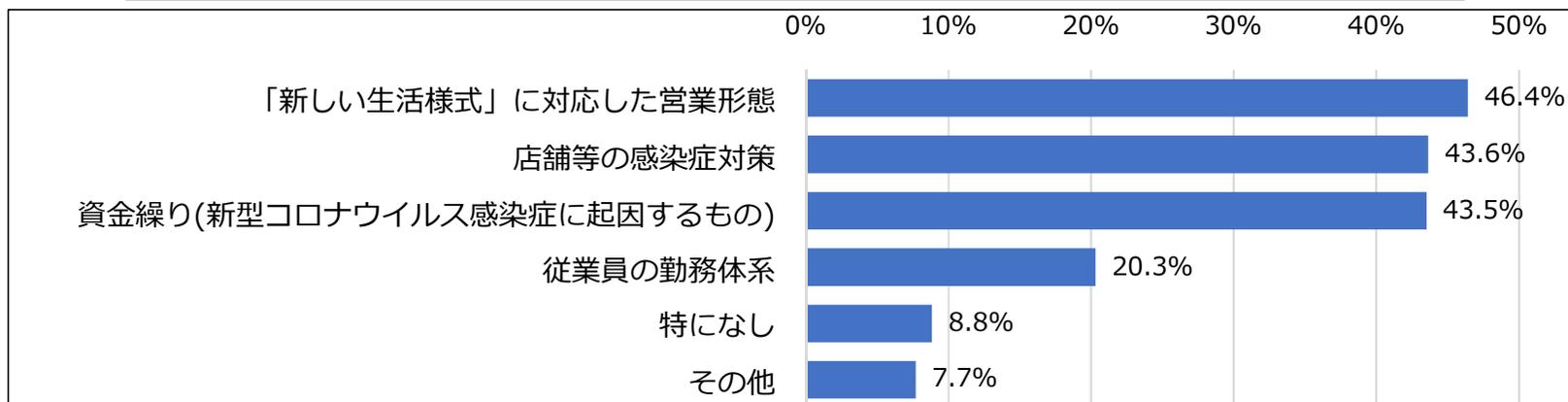
本県観光関連事業者への影響を見ると、売上額及び入込客・宿泊客が対前年比50%以上減少している事業者が約7割を占めています。また、事業者が抱える営業面の課題・問題点では、「新しい生活様式」に対応した営業形態」と回答した割合が最も高くなっており、新型コロナウイルスの影響が大きくなっていることが分かります。

■本県観光関連事業者への影響



(出典) 群馬県「観光関連事業者アンケート」(令和2年度)

■本県観光関連事業者が考える営業面の課題・問題点(新型コロナウイルス感染症関係)



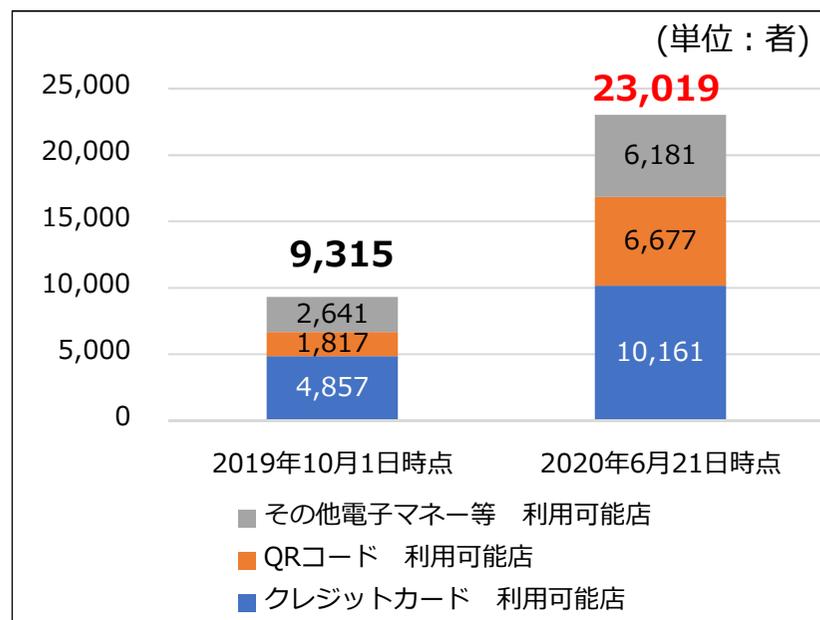
(出典) 群馬県「観光関連事業者アンケート」(令和2年度)

現状3 観光分野におけるデジタル化

近年の社会状況を見ると、Wi-Fi環境の整備やキャッシュレス決済の普及をはじめ、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）、ビッグデータといったデジタル技術の活用や、新たなデジタル基盤である第5世代移動通信システム（5G）の運用開始等、デジタル化が進んでいます。

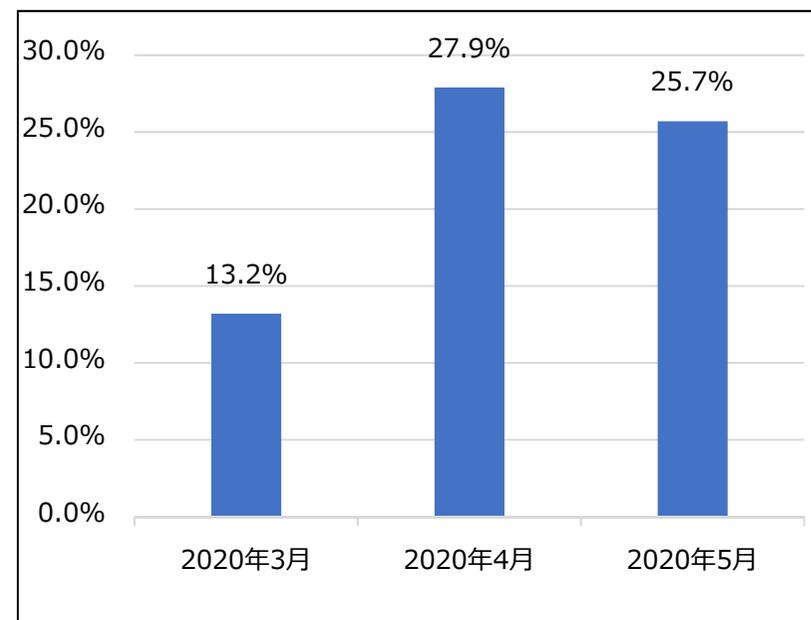
加えて、新型コロナウイルスを契機に、テレワーク*やネットショッピングなど、リモートでの取組も拡大しています。

■本県のキャッシュレス決済
対応事業者の推移（ポイント事業期間中）



(出典) (一社)キャッシュレス推進協議会
「ポイント還元事業加盟店数の推移」

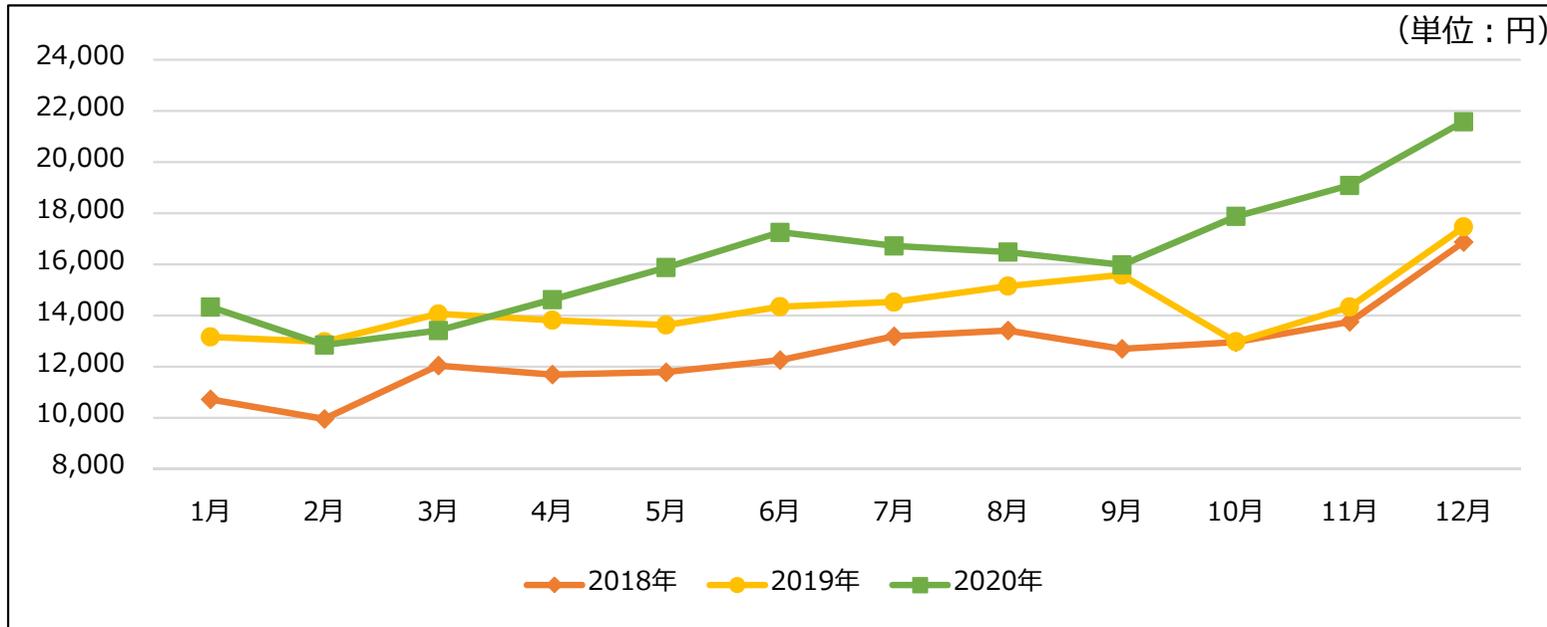
■テレワーク実施率の推移（全国）



(出典) パーソル総合研究所
「第三回・新型コロナウイルス対策による
テレワークへの影響に関する緊急調査」

テレワーク：情報通信技術を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のことで、「Tel（離れて）」と「Work（仕事）」を組み合わせた造語。自宅で働く「在宅勤務」、移動中や出先で働く「モバイル勤務」、本拠地のオフィス以外の施設で働く「サテライトオフィス勤務」といった形態がある。

■ ネットショッピングにおける支出額の推移（全国）



（出典）総務省「家計消費状況調査」

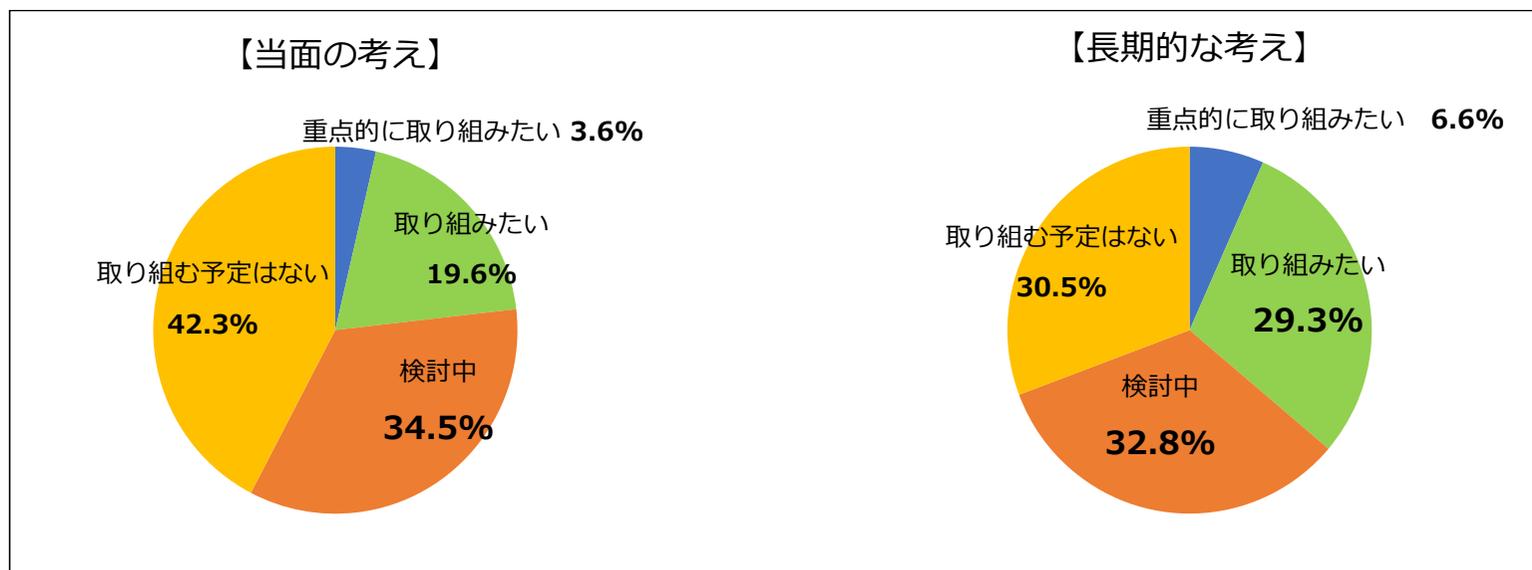
社会的な背景も踏まえ、観光分野においても新型コロナウイルスの影響で非対面・非接触が求められる状況下では、デジタル活用により観光産業や誘客のあり方に変革をもたらすデジタル・トランスフォーメーション（DX）*への積極的な取組が求められています。

現状4 ウィズコロナ時代の「変化」

現在、インバウンド誘客については、難しい状況が続いており、今後数年間は、入国制限が「開閉」を繰り返すことが想定されます。

本県観光関連事業者のインバウンド誘客への取組意欲を見ると、コロナ禍においては「重点的に取り組みたい」「取り組みたい」とする事業者が約23%となっている一方で、長期的な考えでは「重点的に取り組みたい」、「取り組みたい」の割合が約36%まで高まっています。

■県内観光関連事業者のインバウンド誘客への取組意欲



(出典) 群馬県「観光関連事業者アンケート」(令和2年度)

国内旅行については、「密」(密閉・密集・密接)を避ける傾向が強まっていることや、感染拡大状況によっては都道府県間の移動自粛要請が行われることが想定され、当面の観光客数は新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して落ち込むことが考えられます。

本県観光が抱える課題

現状1～4から、本県が抱える課題は以下のとおりとなります。

現状1 本県の強み・弱みとその変化の兆し

- 本県に訪れているチャンスを実実に成果に結びつけるために、本県観光を取り巻く様々な状況・課題を正確に捉え、新たな視点で施策を実施する必要があります。

現状2 求められる観光のニューノーマル転換

- 観光のニューノーマル転換を行うための体制整備や、観光客が安心・安全に旅行できるような受入環境の整備が必要です。
- 新型コロナウイルスによる観光関連事業者・観光客への影響を的確に捉え、施策へ反映させるために、データマーケティング*による観光地づくりや情報発信が必要です。

現状3 観光分野におけるデジタル化

- 新型コロナウイルスの拡大という背景も踏まえ、最先端のICT技術を活用した施策を実施する等、デジタル化を強力に進め、新たな価値を生み出す必要があります。

現状4 ウィズコロナ時代の「変化」

- 観光客の減少や、他国・他都道府県への移動制限等、ウィズコロナ時代において変化する社会状況へ臨機応変に対応することが必要です。